

ARIBの動き

第116回技術委員会（通信・放送合同）が開催される

第116回技術委員会（通信／放送合同）が開催されましたので、その概要をお知らせします。

1 日時 平成17年12月21日（水）午後4時から5時30分まで

2 場所 当会第2会議室

3 議事概要

(1) 事務局から、次の事項について報告があった。

ア DiBEGの活動状況

イ KORA(Korea Radio Station Management Agency)との相互協力に関する覚書の締結

ウ ワイヤレスブロードバンドシステム推進研究会の審議状況及びワイヤレスブロードバンドの標準化に関する最近の動向

エ アナログ周波数変更対策業務

(2) 次回の放送分野の技術委員会は、平成18年1月31日(火)午後2時から、通信分野の技術委員会は、平成18年2月22日(水)午後2時から開催することになった。

ARIBからのお知らせ

「小電力無線局解説書 改訂－5版」発行のお知らせ

「小電力無線局解説書 改訂－4版」は平成14年12月に発行されましたが、その後も小電力無線局に関連する標準規格の改定等がおこなわれており、多くの方々から小電力無線局解説書の改版についてのご要望をいただいております。このたび、平成17年8月末までに制度化されたものを盛り込んで「小電力無線局解説書 改訂－5版」を発行いたしましたので、ご案内申し上げます。頒布価格は1冊2,205円です。購入を希望する方は、ARIBホームページから、お申込み下さい。

(<http://www.arib.or.jp/kikakugaiyou/hanpu/rep.html>)

高速電力線搬送通信に関する研究会報告及び高速電力線搬送通信と無線利用との共存条件案に係る意見の募集の結果（総務省報道発表から）

総務省から、平成17年12月26日に「高速電力線搬送通信に関する研究会」の報告書が発表されましたので、報道発表資料の中から研究会報告概要を以下に示します。

なお、詳細は、<http://www.soumu.go.jp/s-news/2005/051226_6.html>を参照ください。

高速電力線搬送通信に関する研究会報告概要

屋内での高速電力線搬送通信（PLC）の実現という要望を受け、平成17年1月から、「高速電力線搬送通信に関する研究会」（座長：杉浦行東北大学電気通信研究所教授）を開催。電力線で短波帯（2～30MHz）の信号を伝送した場合に発生する漏えい電波が無線利用に影響を及ぼすことが懸念されることから、高速電力線搬送通信と無線利用との共存可能性・共存条件等について検討を行ってきたところ。

許容可能な漏えい電波の強度に関して各構成員の考え方が大きく乖離する中、中立的な有識者グループにより共存条件案を作成し、これに対してパブリックコメント招請を実施したところ、1331件の意見が提出された。研究会では、これらの意見も踏まえ、報告書を取りまとめた。

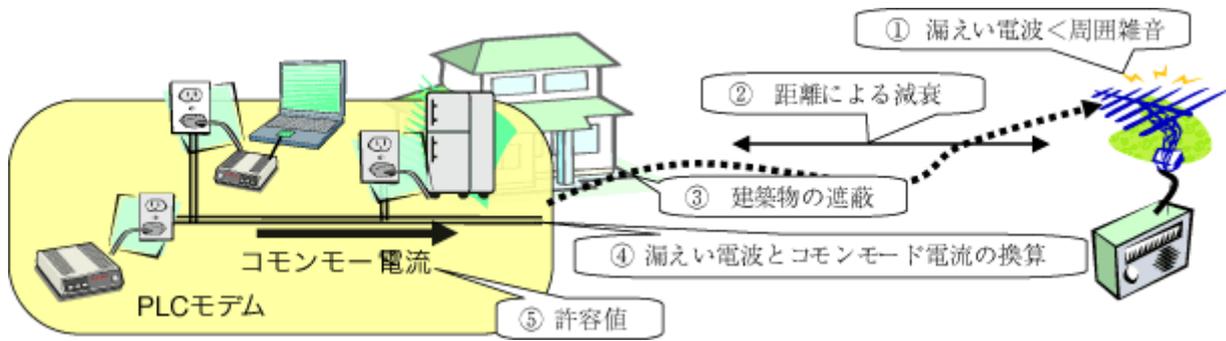
共存条件の内容

1 電流の許容値

漏えい電波の発生要因である電流成分（コモンモード電流※）：30dB μ A以下（準尖頭値）

※ 電力線に高周波信号を流したとき、二本線を往復に流れる（逆相）電流成分と、同一方向に流れる（同相）電流成分が発生する。このうち、同一方向に流れる電流成分をコモンモード電流という。

＝パソコン等の情報技術装置から漏えいする妨害波の許容値として国際的に利用されている規格（CISPR22）と同等のもの。



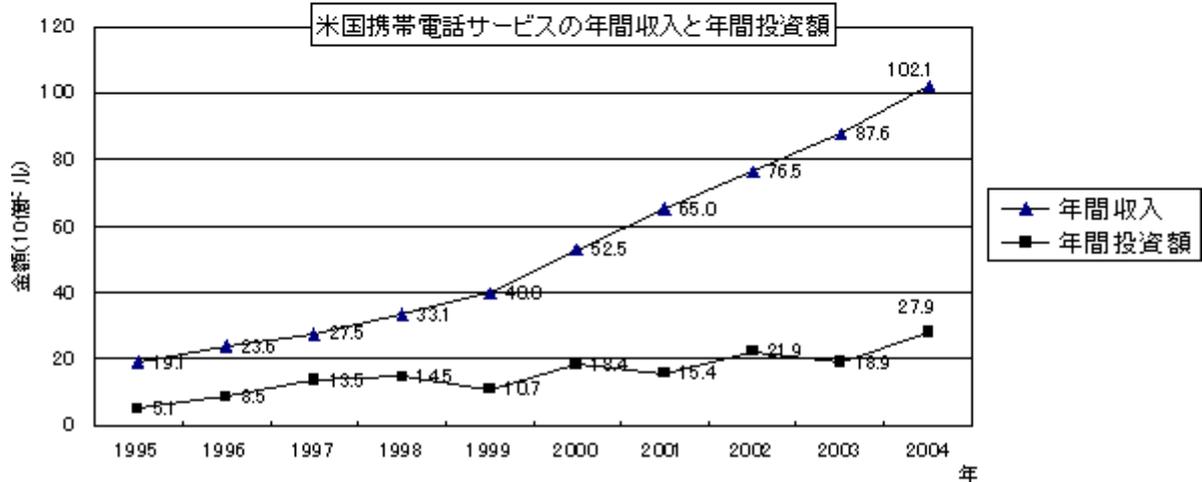
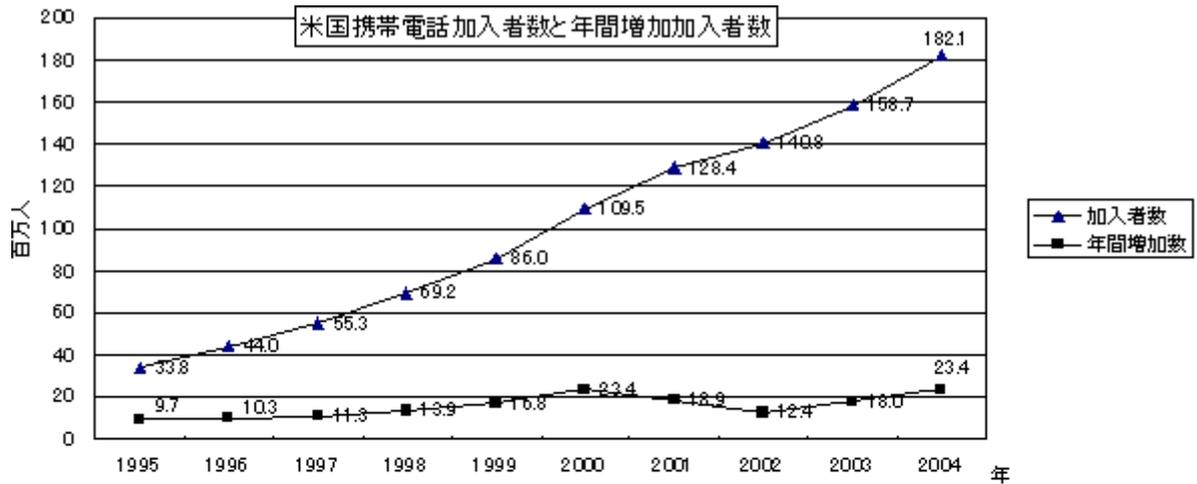
2 電力線の特性

我が国の家屋の電力線の特性を測定（62家屋、約10万件のデータ）した結果を基に、99%の確率で許容値を満たすように機器を認証する。

グラフで見る電気 通信・電波産業

米国の携帯電話産業の概況

(FCCの「第10次携帯電話の競争状況に関する年次報告」(2005年9月)を元に作成)



欧州電気通信/ 放送の動き

フランス・テレビジョン、FTのADSLテレビ「マ・リーニュTV」で
トリノ・オリンピックを放送
【Les Echos,2005/12/27】

フランス・テレビジョン（仏公共放送）は、12月26日、トリノ冬季オリンピックの映像をフランス・テレコム（FT）に提供することで合意に達したと発表した。

フランス・テレビジョンがインターネット放送を行なうための事業者選定の入札を行い、これをFTが落札した。

今回の合意により、FTのADSLテレビ・サービスである「マ・リーニュTV」では、5チャンネルを使用して毎日8～10時間、合計50時間程度が放送される予定とされている。

なお、フランス・テレビジョンとFTは、2005年6月のテニスの全仏オープンの際も、ADSL上でのMPEG-4 HD規格によるHDTV放送で協力した実績がある。

携帯電話でのサッカー試合放送権、10事業者が入札登録
【Les Echos,2006/01/06】

フランスのプロサッカーリーグ（LFP）が招請する携帯電話でのサッカー試合放送権入札について、10事業者が参加資格登録を申請した。

3大携帯電話事業者のうち、現在のサッカー試合放送事業者であるオレンジ、またSFRの申請は予想通りであるが、3位のブイグ・テレコムは申請していない。仮想移動体通信事業を展開するNRJ、ヌフ・セジェテル、テレ2、デビテルなども申請しなかった。

他の申請者は、TV放送局では、ペイテレビのカナル・プリュス、TPS、民放M6。残りはコンテンツ制作会社のSPORTEVER（オレンジ向けにコンテンツを制作）、eTF1（民放TF1のインターネット子会社）などで、もしコンテンツ制作会社が落札した場合には、どの携帯電話ネットワーク上でも放送が可能になる。

入札結果は1月27日に公表される見通しだが、対象となるのは2006-07年と2007-08年の2シーズンだけなので、落札額はさほど高くないと見られている。現在の放送権料は年間800万ユーロ（約11億2300万円）であるが、LFPでは新規契約も同程度と予測している。

編集後記

K 「中国って大きいんだね。人口が13億人で世界の5人に一人は中国人だってね」

T 「中国だけじゃないですよ、インドだって10億人ですよ」

K 「新聞でBRICs、BRICsって騒いでいるわけだ。成長する大市场なんだな。他の国の人口ってどれくらい知ってる？」

- T 「ロシアが1.4億人、ブラジルが1.8億人。BRICsで全世界の人口64億人の半分近いんですよ」
- K 「中国とインドがダントツだね。そう言えば、先日の日経新聞で、インドの携帯電話加入者数が一年間で2,790万人増加し2005年末で約7,592万人に達したと報道されていたね」
- T 「2005年はまだ分からないけど、2004年のアメリカの携帯電話加入者数増加の2,340万人より増加が多いんですよ。何しろ母集団が大きいですからね。中国も調べておきますよ」
- K 「大きいこと以外で最近驚いた国はオランダだね。電波産業年鑑を作成していて気がついたんだけど、日本からの輸出で有線通信機器、無線通信機器、テレビ受像機、ビデオテープレコーダのいずれの機器でも日本の輸出額上位5カ国にランキングされるのは米国とオランダだよ」
- T 「ふーん米国は分かるけど、確かにオランダとは意外ですね」
- K 「俺なんてオランダで知ってるのは、鎖国時代の交易国でいろいろ知識が入ってきたこと、風車・酪農の国、最近では元浦和レッズの小野伸二がオランダのサッカーリーグで活躍してることぐらいだよ」
- T 「それは少し知らなさすぎですよ。オランダは立憲君主国で、チューリップ・風車・木靴の国で知られてますが、レンブラント、ゴッホなど著名な画家もいて芸術・文化でも優れていますよ。経済だってIMDの2005年の経済競争力で世界13位、日本より上だし、ノーベル賞受賞者だって日本より多い15人ですよ。フィリップスやシェルだってオランダの会社ですよ。でもね、国土の1/4が海拔0メートル以下なんですよ。オランダ在日大使館のHPを見ると、欧州の玄関口ともいって、機械類の輸入はほとんどが、そのまま欧州各国に輸出されるそうですよ。これで納得できたでしょ」
- K 「・・・」

(K.K)